

1

田原市が環境大臣から表彰

環境と共生するまちづくりを進めている田原市が、平成16年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」を受賞しました。

この表彰は、地球環境問題やリサイクル対策など、さまざまな地域の課題を視野に入れながら、市民や団体、企業と協働してまちづくりに取り組んでいる地域を対象に、特



小池大臣から表彰を受ける白井市長(環境大臣室にて)

に顕著な実績をあげている自治体などを環境省が表彰しているもので、今年は全国で10団体が選ばれています。

田原市は『エコ・ガーデンシティ構想』に基づき、遊休農地で菜の花を栽培し菜種油を有効活用する菜の花エコプロジェクトや、太陽光発電・風力発電の積極導入、畜産ふん尿の堆肥化などを進めています。また、環境と共生した産業振興にも力を入れ、市内で発生する温室効果ガス(地球温暖化の原因となるガス。二酸化炭素など)の10%削減(1990年度比)にも取り組んでおり、これらの施策が高く評価されました。

12月6日(月)には環境省で表彰式が行われ、出席した白井孝市田原市長が、小池百合子環境大臣から直接、表彰状を受け取りました。

環境課 ☎23局3541

2

防災講演会を開催

巨大地震に備える講演会「地震災害から身を守るための心構えを学ぶ」を、11月23日(祝)に田原文化会館文化ホールで開催しました。講師は、名古屋市のNPO『レスキューストックヤード』の栗田暢之代表理事。全国で地震が頻発していることもあり、約250名の参加者が熱心に耳を傾けました。

栗田氏は、発生が予想される東海地震などの概要を説明した後、平常時の防災力を高め、いかに備えるかを説明。新潟県中越地震の実例をあげ、何よりも人命を優先することや「家の耐震化」と「地域コミュニティ形成」の重要性を説き、災害に強い地域づくりを呼びかけました。

防災対策室 ☎23局3548



地震災害への心構えを語る栗田氏。阪神・淡路大震災では、「直接死の8割以上が家屋などの倒壊による圧死」「生存者を助け出した6割が近所の人」だったことに触れ、いざというとき生死を分けるのは家庭や地域の防災対策であることを力説。また、命を救った3点セットとして「パール」「のこぎり」「ジャッキ」を紹介した。